



「ぼくの夢」



必佐小学校 六年 久野 太暉

ぼくは、将来生物学者になりたいです。夢に向かって日々、図かんを借りて図書館に行ったり、インターネットで生き物の持ちようやどんな生活をしているのか調べたりしています。ぼくが、生物学者になりたいと思っただけはおばあちゃんです。おばあちゃんは、魚やバッタをとってきてくれました。ぼくは、それを大切に家で世話しているうちに興味を持つようになりました。

ぼくが、好きな生き物は、ウナギです。図かんやテレビで知ったのですが、日本に帰ってくるウナギはすべてオスでメスが一匹もいないのです。子孫を受け継いでいるのになぜオスだけなのか大きな疑問をもちました。ぼくも、ウナギを研究するチームに入ってその秘密を見つげたいと強く思いました。まだまだ研究の途中にあるウナギですが、十年以上困難だったことを可能にした男の人がいます。ウナギの産卵方法を見つけてウナギのメスをつくることに成功したのです。その人が世界的大発見をしたことにぼくは心をうばわれました。ウナギの完全養殖に成功したその人は、水産総合研究センターグループ長の田中秀樹さんです。そ

れをテレビで見たぼくは、田中秀樹さんのように何か一つのことをとことん調べてだれも気づかなかったような発見をしたいと思いました。そして、それを世界中の人に伝えたいです。

ぼくが学者になって、一番にしたいことは新しい新海の生物を見つけることです。深海には、まだ発見されていない生物に出会える可能性があります。この前ニュースで今までまぼろしだと言われていたリュウグウノツカイ、ダイオウイカのほかく件数が増えていると聞いていました。まぼろしの深海の生物が、なぜそんなにほかくされているのか深海のことを調べてヒントを見つけ出したいです。その小さなヒントで日本に海、世界の海に災いが起こるのを防げるかもしれません。なので、ぼくは学者になって最初に深海を調べに行きたいです。

そして、新種生物の発見だけではなく、絶滅きぐ種を保護し、これ以上絶滅する生物をなくしていきたいです。およそ四百年前ドードー言う鳥がいました。その時代には食料がなかったので人間は、ドードーを食べ続けました。その結果ドードーは、およそ百年で地球からいなくなりました。その他にも、オオクワガタは高値で売買されるため人間がとりすぎて、絶滅きぐ種に指定されました。七年前にはより絶滅の危険が増大している絶滅危惧種 \square 類に引き上げられました。このような悲劇を繰

り返さないために、生物が過ごしやすい環境が作れる学者になります。

ぼくと同じ日野町十禅寺には橋本忠太郎さんという植物学者がおられました。忠太郎さんは、子どもころから、植物が好きで、出かけるときもすぐに植物に気をとられ、新しい服をボロボロにしていたそうです。ぼくはそれほど植物にぼつ頭できる忠太郎さんを尊敬しています。

ぼくは、将来世界中を飛び回って、色んな生物とふれ合い立派な生物学者になります。橋本忠太郎さんのように生物に没頭して楽しく仕事をし、二十年後には、田中秀樹さんのように世界的大発見をし、世界中に久野大暉の名前を残します。

